

2026 年度 事業計画書

自 2026 年 4 月 1 日
至 2027 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

2026年度 事業計画書

1. 視聴覚障がい者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1)手話放送の制作支援 およびその他の場での手話の提供

「NNNニュースサンデー」に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜日午前6時15分～6時30分の全国放送ニュースです。

聴覚障がい者への情報サービスの一助として、手話通訳を画面右下にワイプで挿入しています。2026年度も東京聴覚障害者福祉事業協会から推薦を受けた4名の手話通訳士がローテーションを組み、年間52回の手話放送に携わる予定です。

なお、今年度より聴覚に障害を持つ方々により幅広い支援を行うべく、手話通訳士の派遣を番組のみに留まらず、映画、舞台、コンサート、美術展などに拡大することを検討しています。

(2)点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーの製作・無料配布は、1976年から続く当財団の基幹事業です。

来年度も2027年版の写真付き点字カレンダーを製作し、当事業団から全国の施設や個人に約2万部、さらに日本テレビのネットワーク各社の協力を得て、それぞれの地域を中心に約2万部を無料で配布します。

点字カレンダーには、月ごとに美しい写真と、点字でも表記した写真の解説文が添付されていて、晴眼者と視覚障がい者とのコミュニケーションを促す願いが込められています。2027年版として配布する点字カレンダーのテーマは「道のある風景」です。

製作と配布は、社会福祉法人日本点字図書館のご協力を得て実施します。

(3) 視覚障害者支援の情報発信、視覚障害者の生活の幅を広げるための支援

(旧:ラジオ番組からの情報発信)

2014年4月から制作放送しているラジオ番組「小鳩の愛～eye～」。視覚障がい者に対して晴眼者がどのように接すれば良いのか、また、日々の生活の中で、視覚障がい者は何を必要としているのか等を考える上で参考となる情報を発信し、視覚障がい者と晴眼者が共に生きていける社会の実現を目指す番組です。放送はオール・エフ・ラジオ日本で毎週土曜日午前8時15分からの15分間（富山県・北日本放送では日曜日午前7時15分から）、メイン・パーソナリティは日本テレビの滝菜月アナウンサーです。

また、連動企画として、視覚障がい者のための音声図書「日テレ小鳩文庫」を日本テレビ・アナウンス部の協力を得て2022年3月から制作しています。これまでに6冊の音声図書を完成させ、日本点字図書館の音声図書ネットサービス図書館「サピエ」、CDの貸し出しにより提供しております。2026年度も制作を続ける予定です。

さらに来年度は、新たな事業の試みとしまして、視覚に障害をもつ方々が映画、舞台、コンサート、美術展などをより身近に体験できるよう、音声ガイドの制作支援に取り組む予定です。

(4) 障がい（視覚・聴覚）のある生徒のための進学支援制度

障がい（視覚・聴覚）のある生徒を対象にした進学のための支援制度です。修学の意欲と能力がありながら、経済的事由により大学や専門学校、短期大学等への進学が困難な生徒に入学時に必要な経費を支援するもので、2022年度にスタートしました。

申請者を5人の理事による「選考委員会」が審査し、内定者とした中から志望校に合格して実際に進学した生徒に1人一律80万円を給付、返済は不要です。2026年度も2025年度の審査で内定とした7名のうち実際に進学した生徒に支援金を給付します。

(5)手話スクールの開講と手話の普及事業

「手話スクール」は、手話が分かる人、できる人を増やし、聴覚障がい者の生活支援に貢献していただくことを目的に、1975年から授業料無料で開講している当財団の基幹事業です。

基本的な講座は2年間ですが、手話の習熟度をさらに高めたい希望者は、さらに1年間（実践編）の講座に参加します。

2026年度も、土曜日に神田やお茶の水の会議室で、1年生（50期生）48名、2年生（49期生）45名、3年生（48期生）30名が参加し、年間26回の授業を行う予定です。

・1、2年生 講師：田原 直幸 ・3年生 講師：早水 久美子 ・助手3名

（東京手話通訳等派遣センターより派遣）

2. 視聴覚障がい者を支援する団体 その他の助成

(1)聴覚障がい児の学校への助成

団体生活へのスムーズな順応を促すことを目的に、耳が不自由な生徒約50～60人が参加する夏期郊外学習への助成です。

助成先：学校法人 日本聾話学校

(2)視覚障がい者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

目が不自由な方々を援助する人材の指導・育成のためのDVD教材製作への助成。また、同じ目的で行う地方講演会にも助成します。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(3)「視覚障害者に接する人びとのために」製作への助成

ガイドブック「視覚障害者に接する人びとのために」1万部の製作と配布への助成。援助者が、視覚障害者と一緒に歩く際の留意点や危険物の扱い方などを学ぶ内容です。

助成先：社会福祉法人 日本視覚障害者職能開発センター

(4) 点字技能検定事業への助成

日本盲人社会福祉施設協議会が行う点字技能検定試験への助成。受験にかかる費用の一部等に使用されます。この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにあります。

合格者は、厚生労働省が認定する「点字技能師」の資格を取得し、視覚障がい者施設・団体・専門学校等の講師として、点訳・点字校正・点字指導等を行っています。

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

(5)その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会への助成（優勝・準優勝楯を贈呈）

助成先： 全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・視覚障がい者が参加するブラインドテニス大会への助成

助成先：日本ブラインドテニス連盟

- ・チャリティー映画会開催への助成（映画のチケット購入）

助成先： 社会福祉法人日本聾話学校、社会福祉法人日本点字図書館

- ・本間一夫文化賞への助成（記念品代）

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館

*「本間一夫文化賞」は、日本点字図書館創立者の本間一夫氏（故人）を記念し、視覚障がい者の文化の向上に関する分野で優れた業績をあげた個人・団体を顕彰する賞。

- ・東京都盲人福祉大会への助成

助成先： 公益社団法人 東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防に関わる啓発活動への助成

助成先： 公益財団法人 日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先： 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

<新規助成案件>

- ・さまざまな障がいのある人が楽しめる演劇の上映への助成

助成先： バリアフリー演劇結社「ぼっかりぼっかり」

- ・「情報化対応支援者研修会」への助成

助成先： 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

3. 文化及び芸術に関する各種の公演・講座 等

(1) 「グランプリ・コンサート2026」 (公財)日本室内楽振興財団と共催

若手演奏者の登竜門として3年に1度開催される「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」各部門の優勝者を招聘して開催するコンサートです。

2026年度は、3年に1度開催される「大阪国際室内楽コンクール」において新たな優勝団体が決定します。その中から、弦楽四重奏部門の優勝団体を招き、開催します。

- ・開催予定 11月28日(土) 東京 サントリーホール

ブルーローズ(小ホール)

(2) 「想いで^{うた}の詩コンサート2026」 企画・主催

世代やジャンルを超えて歌い継いでいきたい国内外の名曲を送り届けるコンサート。プロの歌手やミュージシャンが全国各地を訪問し、地元の少年少女合唱団等と共演します。2026年度のコンサートも1960年代から70年代の名曲を中心に構成し、幅広い世代に音楽の素晴らしさを伝えます。

・開催予定 11月23日（月・祝）東京都 東大和市民会館ハミングホール

* 「2VOICE」と東大和少年少女合唱団との共演を予定

(3) 「スクールコンサート」 企画・開催

その1) 視覚支援学校・盲学校でのスクールコンサート

2022年度に日本テレビ小鳩文化事業団創立10周年記念事業の一環として企画した視覚支援学校・盲学校でのスクールコンサートを2026年度も開催します。視覚に障がいのある生徒の皆さんにプロの演奏家のライブ演奏に触れていただき、音楽の楽しさを伝えます。

・開催予定 10月6日（火） 栃木県立盲学校（栃木県佐野市）

11月5日（木） 秋田県立視覚支援学校（秋田県秋田市）

12月18日（金） 滋賀県立盲学校（滋賀県彦根市）

その2) 中学生を対象にしたスクールコンサート

次代を担う中学生をメインの対象に、一流のプロの演奏家や歌手のライブの音楽に触れる機会を創り、時代やジャンルを超えて様々な名曲を楽しんでいただくコンサートです。また、演奏を聴くだけでなく、地元の学校の吹奏楽部や生徒たちが、プロの演奏家や歌手と共演する「参加型」のコンサートであることも大きな特徴です。全国の中学校や教育委員会、市民ホール等と協力して実施しています。

・開催予定 11月11日(水) 糸魚川市内中学校4校(新潟県糸魚川市)

※糸魚川市内の地域吹奏楽クラブとの共演

2027年2月5日(金) 練馬区立豊溪中学校(東京都)

(4)「^{しょうみょう}聲明 公演」企画・開催

2026年度は実施しません。

4. 文化及び芸術に関する事業・活動への助成

(1) 第78回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に対する助成

中学生の英語力と弁論能力を高め、次代の国際交流の担い手を育成することを目的とした大会への助成です。2026年度は78回目を迎えます。

助成先： 日本学生協会基金(読売新聞社協力)